

～日本の伝統芸能に親しむ～

世界に誇る日本の宝・ユネスコ無形文化遺産



人形浄瑠璃文楽 公演 ご案内

◇ 国立文楽劇場 会場 40 周年記念 初春公演

第 1 部 開演 11:00～終演 13:40

しんぱんうたざいもん

新版歌祭文

座摩社の段
野崎村の段



担当：運営委員

人形浄瑠璃文楽は、日本を代表する伝統芸能の一つで、大夫・三味線・人形が一体となった総合芸術です。ユネスコ無形文化遺産保護条約が発効した 2009 年の第 1 回登録で、あらためてユネスコ無形文化遺産に登録されました。その成り立ちは江戸時代初期にさかのぼり、古くは操り芝居、そののち人形浄瑠璃と呼ばれています。竹本義太夫の義太夫節と近松門左衛門の作品により、人形浄瑠璃は大人気を得て全盛期を迎え、竹本座が創設されました。その後、いくつかの人形浄瑠璃座が盛衰を繰り返し、幕末、植村文楽軒が大阪ではじめて一座が最も有力で中心的な存在となり、その名を「文楽座」というようになりました。「文楽座」の人形浄瑠璃が、その後も継承され、今の「人形浄瑠璃文楽」として存在することとなります。

【実施日】 2025 年 1 月 17 日 (金)  雨天: 決行

【集 合】 国立文楽劇場 正面入口前 10 時 30 分
(おおさかメトロ・近鉄「日本橋」駅 7 番出口すぐ)

【参加費】 2,000 円 (入場料 4,500 円、差額は会計補助)

【持ち物】 軽食、飲み物、その他各々に必要なもの



<文楽・三業>

文楽は男性によって演じられ、太夫・三味線・人形の「三業(さんぎょう)」で成り立つ三位一体の技芸です。客席の上手側に張り出した「床(ゆか)」とよばれる演奏台の上で、太夫と三味線が浄瑠璃を演奏します。



◇ 太夫 (浄瑠璃語り)

太夫と三味線は、対等な立場で競演しながら義太夫節を組み立てていきます。どちらが指揮者というわけでもなく、お互いの意気が合うことが大切で、緊迫した呼吸の積み重ねの内に進められて行きます。



◇ 三味線

太夫の語りと一体となって義太夫節の情を表現します。文楽で使う太棹三味線が一番太くて重く、駒やバチも大きく作られています。その重厚な太い音色が人間性の本質に迫り、音一つの内にも背景や心情などの表現力を秘めています。



◇ 人形

文楽の人形は、人形一体を三人の人形遣いが操る、世界でも例を見ないもので、微かな動きはもちろん心情までも表現し、生身の人間以上に訴えかけるものを持っています。人形は、かしらや衣装など、ばらばらに保管されています。公演の度に役に合わせて、かしらにかつらを付けて結いあげられ、衣装・手足・胴・小道具などが揃えられて、人形遣い自身が人形を拵えます。

